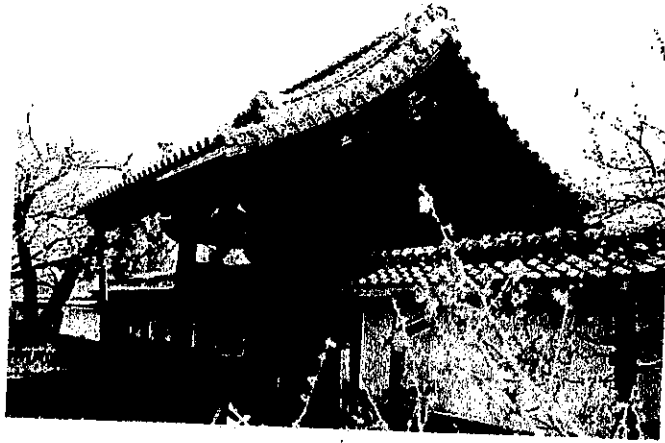


水戸殉難者恩光碑保存会 会報

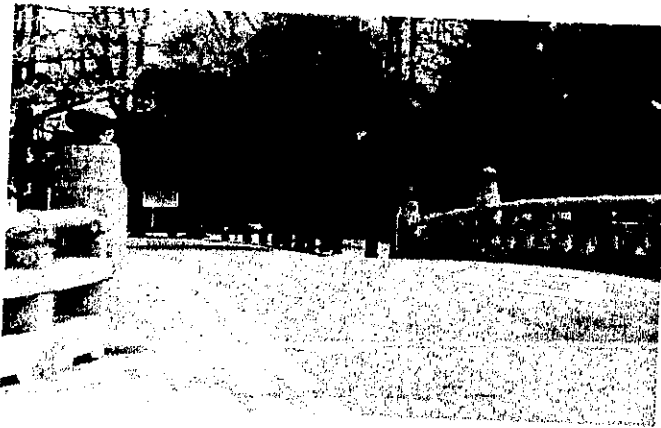
知恩

第十七号

水戸 弘道館 正門



水戸城 大手橋



「水戸城跡」戊辰動乱・残照

原作 鈴木茂乃夫
調整 前澤 瑞穂

1 菊と葵の花園に

戊辰の風雲急を告ぐ

世に魁て 咲く梅も
白と紅とに咲き分かる

2 至誠は一つ 道二つ

報恩大事と決起せる
譜代重臣 学徒らも
故郷をあとに北越路

3 会津 新潟 出雲崎

戦野を駆ける五百の士
佐渡が島より望みしは
栄枯を映す郷里の月

4 同志会津の城は燃え

帰りてめざす水府城
されど守りの陣固く
勇む諸生の夢空し

5 三家藩士の名に恥じず

文武鍛えし学びやの
弘道館も今やはや

矢弾の中に煙つつ

6 望み新たに下総へ

武運拙し松山戦

水府勇士の夢の跡
今 鎮魂の梅薫る

7 千年万苦踏み越えし

報恩一途 門閥士

偲びて集い語る日の
落日寂し水戸城跡

8 血もて洗いし同胞の

声かと紛う風蕭蕭

恩誓はるか去りし今

共に語らむ水戸の史

平成27年度 定時総会を3月28日に終了しました。

次の通り 報告します。

平成27年度 総会次第

水戸殉難者恩光碑保存会

日時 平成27年3月28日(土曜日) 午後1時30分より3時30分まで

場所 祇園寺 客殿・大広間において

進行 開会 11:30 事務局
閉会の辞 事務局
1 会長 挨拶
2 議員選出
3 議長選出
4 議事

説明担当「事務局1」

平成26年度行事報告 監査報告
平成26年度収支決算報告
平成27年度行事計画案
平成27年度予算案
任期満了に伴う役員改選の件

- 1 第1号議案
- 2 第2号議案
- 3 第3号議案
- 4 第4号議案
- 5 第5号議案
- その他

全終了 pm3:30 事務局

第1号議案(26年度行事報告)

1 水戸藩国事殉難者恩光式を挙げる
平成26年4月21日 会津若松市白虎隊記念館敷地内、水戸藩諸生堂遺構碑 前 において

水戸藩戦没者恩光式を挙行しました
水戸藩戦没者恩光式を挙行しました

2 役員会
3 事務局会
4 会報知恩発送
5 幕末維新水戸有志を偲ぶ会・史学会特集号、ほか 会員全員に送付しました

3 役員会
4 事務局会
5 会報知恩発送
6 幕末維新水戸有志を偲ぶ会・史学会特集号、ほか 会員全員に送付しました

2 役員会
3 事務局会
4 会報知恩発送
5 幕末維新水戸有志を偲ぶ会・史学会特集号、ほか 会員全員に送付しました

3 役員会
4 事務局会
5 会報知恩発送
6 幕末維新水戸有志を偲ぶ会・史学会特集号、ほか 会員全員に送付しました

第3号議案(27年度行事計画)

1 予定 水戸藩国事殉難者恩光法要を祇園寺において行う予定
日時 平成27年9月中

2 総会
3 役員会
4 事務局会
5 会報知恩作成発送
6 その他

1 予定 水戸藩国事殉難者恩光法要を祇園寺において行う予定
日時 平成27年9月中

2 榎柳浜渡の碑文拓本、が水戸市指定文化財に指定されました(報告)
27年6月頃 講演会を行う

2 榎柳浜渡の碑文拓本、が水戸市指定文化財に指定されました(報告)
27年6月頃 講演会を行う

第5号議案(任期満了に伴う役員改選の件)
平成27年1月より28年12月まで 2年間 次の方々が選任されました。

第5期 平原宣弘 祇園寺住職 高橋丈夫 水戸市議会議員
顧問 川上有文 副会長 前澤瑞穂 大森信男
役員 常任理事 岡見円礼 朝比奈泰紀 深谷益美
理事 平戸吉衛 緒引正明 弓削徳衛 岡見瑞江 田口 寛 大森泰男
朝比奈泰孝 市川達也 富田源彌 朝比奈泰将
監事 松葉尚志 宇留野光

平成26年度

収支決算報告

26.1.1~ 26.12.31

単位:円

収入の部	金額	内訳	摘要	支出の部	金額	内訳	摘要
前年度繰越	98,373			役員報酬	62,508		
年度会費	132,000			事務費	32,508		
年間寄付	6,000			印刷費	10,821		
法要寄付	60,000			会費	5,000		
参加会費	80,000			送料	30,018		
その他				雑費	17,337		
雑収入				印刷費	21,500		
合計	286,373			雑収入	25,750		
				合計	190,723		

次年度繰越残高

次年度繰越	前年度繰越	当年度収入	当年度支出	当期末残	次期繰越
恩光碑保存会	68,373	218,000	190,723	95,650	
東京貯金センター	0	122,000	122,000	0	
恩光碑保存会基金	180,138	0	0	180,138	
合計	248,511	340,000	312,723	275,788	

平成26年度収支決算書上記のとおり報告致します

2014.12.31

水戸殉難者恩光碑保存会 川上有文 印
会長 松葉尚志 印
事務長 岡見円礼

監査報告
監査の結果、帳簿・決算書とも適正であることを認めます

2015年

平成27年 宇留野光 印
水戸殉難者恩光碑保存会 監事 松葉尚志 印

収支予算案 27.1.1~ 27.12.31 単位:円

収入の部	金額	内訳	摘要	支出の部	金額	内訳	摘要
前年度繰越	95,650			役員報酬	128,000		
年度会費	140,000			事務費	10,000		
27年全費	150,000			印刷費	30,000		
法要参加	150,000			送料	30,000		
参加会費	150,000			雑費	10,000		
その他				印刷費	10,000		
雑収入				雑収入	8,000		
合計	385,650			合計	385,650		

幕末の諸生派悼む

怒りや悲しみ刻んだ碑

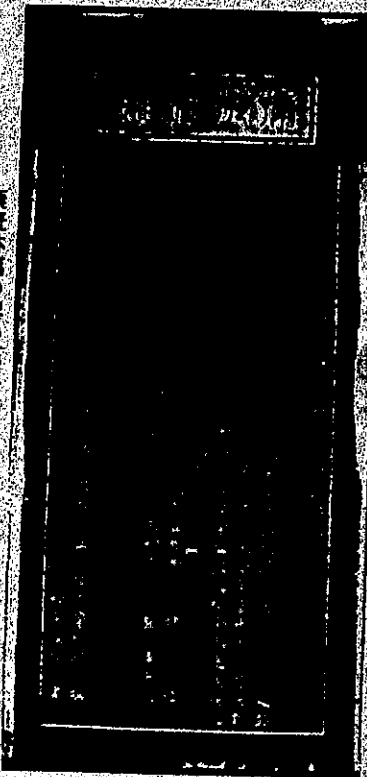
水戸市 拓本と台石、文化財に

水戸市は11日まで、同市元山町の神皇寺（奥田俊亮住職）所有の「慷慨淋漓の碑拓本付台石」を市指定文化財に加えた。拓本は、幕末の水戸藩の内乱で天狗党に敗れた諸生派の人たちの死を悼む内容で、市文化財保護審議会の富田正彦会長は「諸生派に関する文化財は非常に少ない貴重な文化財」と説明。市指定文化財は計98件となる。

「慷慨淋漓の碑」は、1884年に諸生派の親族や知人らが建立した。台に当たる台石が残るとされる。碑は1945年の水戸空襲で破壊された。市教委文化課による調査の文字は、会澤藩の第9代藩主・松平

容保の書で、「諸生派の怒りや悲しみを表している」と（同課）としている。

碑文は、会澤藩の奥書で、東大教授を務めた南摩編紀が作成し、水戸藩の画家、松平雪江が清書した。同課によると、「何を以て主恩に報せん、唯だ一死あるのみ」の一文は、諸生派が徳川家の恩に報いるために命をささげ、戦った気持ちを示している。（小野寺晋平）



慷慨淋漓の碑の拓本（水戸市教委提供）



慷慨淋漓の碑の台石（水戸市教委提供）

各地にある主な

1 水戸藩諸生派殉難の碑
水戸市八幡町 祇園寺

2 水戸市元山町 神應寺
「水戸空襲にて破損焼失」

3 水戸市赤沼町 赤沼獄舎跡
赤沼獄刑死者弔魂之碑

4 水戸市元吉田 蓮乗寺
長岡原刑死者弔魂之碑

5 水戸市渡里町 長者山山麓
市川三座衛門 慰霊碑

6 会津・白虎隊記念館敷地内
水戸藩諸生党鎮魂碑

7 新潟県柏崎市灰爪の丘
北越戊辰の役
当地戦没者供養塔

8 新潟県長岡市寺泊 法福寺
佐藤図書守信近 顕彰碑

9 千葉県匝瑳市八日市場
水戸藩志士弔魂碑

10 千葉県匝瑳市 長泉寺
水戸藩士の墓 標柱

11 千葉県匝瑳市 安養寺
水戸藩士の墓 標柱

12 栃木県湯津上村 宝寿寺
戦死者供養塔

◆水戸市指定文化財の

指定について

1 物件名 慷慨淋漓の碑

拓本附台石

2 区分 市指定有形文化財

(歴史資料)

3 所有者 宗教法人神應寺

代表役員 奥田俊亮

4 指定日 平成 27年 2月 5日

5 概要

慷慨淋漓の碑は、明治 17年 (1884) 年に神應寺 (現市内元山町) の敷地内に建立された諸生党の記念碑です。上部に篆書で書かれた題字「慷慨淋漓」は会津藩第 9 藩主・松平容保公による書で、碑文は幕末の会津藩を代表する漢学者であり、明治に入り東京大学教授等を務めた南摩綱紀が作成しました。

6 参考

(1) 碑文の読み下し文

水戸威公、東照公の少子を以て、徳川氏を輔けて皇室の藩屏と為り、後世相續くこと三百年、天朝を尊び幕府を重んじ、臣隸亦皆遺志を遵奉し敢えて失墜せず。明治戊辰の變、宗家の転覆を悲しみ、慷慨發憤、死を水戸、会津、越後等の地に致す者凡そ三百人、今年十七回忌辰に當り、親戚故舊謀り碑を水戸城西常磐村神應寺に建て、余をして之を銘せしむ。嗚呼余亦戊辰の亂に遭ひ、矢石の間に間關する者、銘に臨んで豈悽然なからんや。銘に曰く

何を以て主恩に報ぜん

唯だ一死有るのみ、

死各其の所を異にするも、

魂は同じく桑梓に帰す、

いわんや藩祖の廟に近く、

その志乃ち遂ぐ、

地高くして松青く、

豊碑千祀に傳ふ。

明治十七年十一月

正四位松平容保篆額

東京大学教授

正七位南摩綱紀

水戸

松平俊雄

書

(2) 碑文の内容

水戸藩・初代藩主の頼房公は、家康公の末子であり、徳川家を支え、皇室をお守りなされました。以来、水戸藩は、代々続くこと三百年に及び、天皇を尊び、幕府を重んじ、家臣たちもまた皆、頼房公の遺志を守り伝えてきました。

明治元年の戊辰の変で徳川宗家の崩落を悲しみ、慷慨發奮し、水戸さらに会津、越後等の地に尊い命を失った者はおよそ三百人、今年がその十七回忌に当たり、親族、知人らが共に図り、碑を水戸城の西方、常磐村の神應寺に建立することになり、私がこの銘文を記すことになりました。

ああ、私もまた戊辰の亂に遭遇し、戦の苦しみを味わった一人です。その私がこの銘文を記すに当たって、どうして心が痛まないでいられるでしょう。私はこの銘文にはつきりと記したい。

諸士たちは、どのようにして主君の御恩に報いようかと熟慮した結果、それはただ主君のため

めに死あるのみです。その死に場所は異なっても、その魂は同じように郷里に帰るでしょう。

ましてこの場所は、藩祖・頼房公の墓所近くであり、諸士の志にまさに叶うものです。地は高く、松も青々と茂る場所に建てられた、このすばらしい碑は、未永く語り伝えられ、祀られていくことでしょう。

以上

◆この文章は、水戸市教育委員会より、頂いた「水戸市指定文化財の指定について」をそのまま転記致しました。

慷慨淋漓の碑・写真は、茨城新聞の掲載写真と同じですので、省略させて頂きました。

◆此のたび、この由緒ある

「慷慨淋漓の碑文拓本附台石」を水戸市の指定文化財に指定頂きまして、諸生派子孫関係者一同、心より御礼申し上げます。

泉下の殉難諸士も、さぞ、喜んでいられるものと思います。

水戸市・祇園寺にある

「恩光無辺の碑」と共に、未永く、後世に、伝えて参りたいと思ひます。

◆講演会のお知らせ◆

次のとおり、講演会を開催します。

記

1日時 ◆平成27年 6月13日(土)

☆午後1時半より2時まで

水戸有志を偲ぶ会の総会

◆午後2時10分より

3時40分まで

歴史講演会

2会場 水戸市笠原町978-5

◆水戸市総合教育研究所

3階 大ホール

県庁の近くです

3参加 講演会 一般公開

◆参加自由 入場無料

4演題 幕末維新期水戸藩党派の

抗争を巡って

5講師 宮澤正純 先生

元・茨城県立歴史館資料部長

6主催 幕末維新水戸有志を偲ぶ会

共催 水戸市教育委員会

共催 水戸藩国事殉難士を慰霊す

る会(本会)

7申し込みは不要 先着順[250人定員]

8問合せ先

多数の参加をお待ちしています。

家系などから。

◆講師ご紹介(講師・経歴)

・宮澤正純(みやざわ まさずみ)

・水戸一高(昭和35年卒)

・東洋大学卒

・茨城県立歴史館資料室長

・同 部長を経て退職

・幕末期の「水戸藩内党争と農村、

農民の研究」として知られてお

り、その論文も多い。

◆「幕末維新期水戸藩党派の抗争

を巡って」の概要

(概要)

1 水戸藩の党派はどのようにして

発生し、対立したのかを探って

みる。

★まず、通説のように「大日本

史」編纂を巡って起きた学派

の対立だったのか

・「天狗」名の起こりを「新伊勢

物語」の斉昭の文言から紹介

し、「諸生」の総称は何時、

どの状態から広まったか探

って」みる

★続いて、両派の藩政上での立

場と主張を比べる

・親藩水戸の家臣、領民として

の心得、藩士への登用と役職

・両派に対する明治政府の態度

とその明暗

・諸生派の復権願いとその運動

など

4最後に、今日の現状と、それぞ

れの史観を眺め、正しい歴史観

の在り方と生かし方を考える

以上の概要にて、講演会を開催

致します。

以上

★水戸藩幕末争乱は、武士階級だ

けでなく、郷士、神官、農民まで

含めて、水戸領内が真二つに分か

れての争乱になってしまいました。

★この地域(茨城県)で元治元年

桜田事件の4年後のことである。

諸生派

(幕府諸藩連合軍、

市川諸生党、

自衛及び報復の為の農兵隊)

と

天狗派

(松平頼徳勢、

榊原大発勢・尊攘鎮派、

武田・山国・尊攘鎮派、

田丸・藤田・尊攘激派、

潮来・小川郷校・激派)

が戦った。

水戸藩諸生派、
下級藩士の詩文「紹介」

胸に義憤の波湛え
腰に治安の太刀佩きて
我ら起たずば水戸藩の
傾く悲運如何せむ
出でずば亡ぶ人道の
この世に絶ゆるを如何にせむ

此の詩文は、故佐藤光正先生著
小説 水戸諸生党

一 下級隊士の生涯
の一節より引用したものです。

▼この小説の序文に

次のように書いてあります
今も立派に育英事業を続けている
財団法人水戸育英会がある。明
治40年、水戸徳川家十三代当主の
圀順（くにゆき）様が学問事業に
熱心な旧水戸藩の流れを酌まれて
創設され、当時は旧水戸藩領地内
出身者、今は茨城県出身の東京で
学ぶ有為の青年の学業成就のため、
多額の私財を投じてこられました。
著者は昭和30年大学入学時、育英
会の寄宿舎、通称水戸塾に幸い入
塾選考に合格してお世話になるこ
とができました。ご恩返しに卒業

以来、育英会と同窓会である水戸
塾・塾友会の世話役の一端を務め
させてまいりました。

年金生活者となつて、暇にまか
せて水戸藩の歴史を研究しており
ましたが、数十年にわたつて、水
戸塾の先輩、同輩、後輩に教えら
れた話、裏話を一つの小説に仕立
ててみようと思ひ立ちました。小
説に登場する悪役はすべて仮名で
す。小説ですから誇張と面白くす
るための歪曲がございます。現存
する子孫の方々に不快な思いをか
けてしまいましたら、深くおわび
もうしあげます。以上

▼著者・佐藤光正先生は、水戸
出身の方です。平成26年7月に残
念ながら他界されました。諸生派
からみた書籍は少なく貴重な一冊
です。

この本は「非売品」です。一冊し
かありません。

▼この本を希望する方にお貸しし
ますのでご連絡下さい。

本名
小説 水戸諸生党

一 下級隊士の生涯

連絡先
電話又はFAX 本会「事務局」

◆水戸市立博物館

天狗・諸生両派に光

「幕末から明治へ」は同博物館の
26年度の歴史部門常設展。天狗党
関係では藤田小四郎の「慷慨烈士
画賛」明治以降の河鍋暁斎作の錦
絵「耕雲斎筑波山麓」を展示。

水戸城下や那珂湊での戦いの模様
を描いた「水戸城下絵図」「那珂湊
合戦図」のほか、群馬県下仁田、
長野県和田宿、福井県敦賀市など
ゆかりの地の写真で京都にむかう
苦難の道のりをたどる。

諸生派関係では、「弘道館訓導・舎
長辞令」や市川勢の旗等の史料を
展示、水戸を脱出後に、戊辰戦争
を新潟県長岡市での戦い、その後
千葉県八日市場市（現匝瑳市）で
最期を迎えるまでを写真でも追う。

天狗・諸生両派の軌跡を追った
写真パネルが同時に展示されるの
は、茨城県内で初めて。

玉川里子館長は「時代の変革期
に、それぞれが国の未来を考えな
がら、戦いを繰り返した。胸が痛
くなるような泥沼の抗争だが、両
派を公平に紹介することで、憎し
みの連鎖を断ち切りたい」と話す。
茨城新聞記事より。

編集後記

★本会報は、水戸藩幕末と諸生派
に関し、共に、理解を深めるべく、
新情報を収集し、紹介してあります。
皆様の所に、秘蔵の史料がありま
したら是非ご連絡下さい。
了解のうえ、本紙に掲載させて頂
きます。

★水戸市当局（水戸市教育委員会
及び水戸市文化財保護審議会）で
は、「慷慨淋漓の碑文拓本付台石」
を市指定文化財に指定されました。
有り難く御礼申し上げます。

★水戸市立博物館では、天狗諸生
両派に関連する写真パネルが、
26年6月より27年5月15日頃迄
展示されました。

★会報・知恩第17号
平成 27年 5月 1日発行

水戸殉難者恩光碑保存会
「別名」水戸藩国事殉難士を慰霊する会

編集顧問 前澤瑞穂
編集委員 川上有文
編集委員 岡見円礼
編集委員 朝比奈泰紀
編集委員 深谷益美
印刷・作成 編集部